

# 体育科

## における深い学びに到達した児童像

柱① 情報の分析	柱② 考えの形成・再構築	柱③ 既習・新知識の活用	柱④ 課題発見
深い学びポイントとの関連			
自力 協働	自力 協働 練り上げ	見通す 自力 協働 練り上げ	つかむ 見通す メタ認知
◇活動が「できる」ことと、運動が成功するためのポイントが「分かる」ことをつなげることができる。	◇課題の解決に向けて、試行錯誤を重ねて、さらに思考を深めて、よりよく解決できる。	◇これまでの運動経験を基に、新たに取り組む運動に必要な技能を考え、実践することができる。	◇学習を振り返って課題を修正したり、新たな課題を設定したりすることができる。 ◇運動を行う楽しさを味わい、積極的に運動を行うことができる。
<b>自己や周りの状況に対して最善の方法に気づき実践できる児童</b>			

### 児童像の実現のために効果的だった手立て

#### 【学びの自律化】

- ◇ 本時の課題や振り返りを記録し、「できる」ことと「分かる」ことをつなげる。
- ◇ 作戦会議の際、児童の動きをホワイトボードやオクリンクで可視化する。

#### 【個別最適化】

- ◇ 自分の成長や課題を把握するために、タブレットの動画機能を活用する。
- ◇ 児童が運動に楽しく意欲的に取り組めるような場の設定や、児童の目標に合った運動の場を選択できるようにする。

#### 【探究化】

- ◇ 視点を明確にした話合いの時間を設定する。

#### 【その他】

- ◇ 単元で目標としている技能が身に付くために、ねらいとなる技能の習得に類似した運動をパワーアップタイムとして、繰り返し行わせる。  
跳び箱…うさぎ跳び、川跳び越え、馬跳びなど  
マット運動…ゆりかご、タワー、エビポーズなど  
鬼遊び…タグとり、しっぽとり  
アルティメット…パス&ラン

## 実践の成果(○)と課題(▲)

<p>成 果</p>	<p>ゲ ー ム 型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の意見を書いたホワイトボードに意見を提示しておくことで、投げ方を共有することができた。</li> <li>○アウトナンバー方式で、一人一個ボールを持っているため点数が入りやすく、児童の活動への意欲に繋がった。</li> <li>○思考ツールを多数用意することで、作戦会議で動きを可視化できていた。</li> <li>○今までの作戦を記録することで、作戦の改良や新たな作戦を試すことができた。</li> <li>○場の工夫として、得点が入る場を2つ設けることで、苦手な子でも得点でき、それを踏まえた作戦を立てることができた。</li> <li>○単元の設定や、ルール作りを通して配慮の必要な児童のことを考えた単元計画を作成することができた。</li> <li>○集団達成型のパワーアップタイムや兄弟チームでの練習試合を通して、体育科の授業に必要な喜び、達成感に繋がる「勝つ」「できる」という思いをもつ児童が増えた。</li> <li>○教師が作成した作戦を基にして、児童自身で考え、選択できる環境を整備した。</li> <li>○パワーアップタイムとして、基本となる動きの簡単な運動をしたり、主運動に繋がるような運動をしたりすることで、一連の動きに繋がりがやすくなり、技を完成させることができた。また、楽しく体を動かす意欲にも繋がった。</li> </ul>
<p>器 械 運 動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○改善点や本時に意識することを児童一人ひとりが書き、それを提示したことで、書いたことと動きを繋げることができた。</li> <li>○自分の動きを動画で確認する際、スロー再生で確認すると、児童が自分の改善点に気付くことができた。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲タブレットの動画機能を使ったが、動画を確認する際、話し合う視点を明確にしたほうが、チーム全体的な話し合いに繋がられる。</li> <li>▲事前に手本の動画を見せたり、予め送っておいたりすると何をやるのかイメージしやすく、指導したいことが伝わりやすかった。</li> <li>▲個々の伸びは感じ取りにくいので、教具の大きさを統一したり、印を付けて位置を固定したりするなど、場や道具の工夫が必要であった。</li> <li>▲活動に時間をかけるために、準備などは簡略化したり、思考ツールを精選したりする必要があった。</li> <li>▲児童の作戦の案を全体で共有してもよかった。</li> <li>▲「勝つ」という明確な目標を設定しているからこそ、授業終盤に勝敗の共有をしたり、「負け」が続いているチームに対する意図的支援をしたりすると、さらに「勝ち」にこだわることができた。</li> <li>▲理解のレベルとして、「頭→目→体」の三段階の理解がある。イレギュラーへの対応として視覚的に投げ方などの技能面をもう一度考えさせる時間があるとよかった。</li> </ul>